

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	読書活動の充実	会計	款	項	目	12,974,793	学校教育課
		一般	10	2	1		
				3			
事業の概要							
	確かな学力を育むために読書活動の更なる推進を図ります。						

平成28年度の実績						
D (取組)	指標	児童一人あたりの図書室図書の読書冊数				単位 冊
	現 状(計画策定時)	年度	28	29	30	31
	30.4(平成26年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	32.5			
	指標	生徒一人あたりの図書室図書の読書冊数				単位 冊
	現 状(計画策定時)	年度	28	29	30	31
	8.1(平成26年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	7.1			
	・文部科学省が定める「学校図書館図書標準」を目標とし、各校において蔵書の整備を行いました。 ・学校図書館司書を配置し、図書館環境の整備、啓発活動等を行いました。 ・ふるさと納税「こどもたちに本を贈ろうプロジェクト」により、全小中学校に同じ英語の絵本22冊と指定があった長岡第五小学校に図書300冊を購入しました。					
						

施策の「5年後の目標」に対する評価							
平成28年度の達成状況							
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド		対応頁	
		—		—		—	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・ 通常の蔵書整備とふるさと納税による購入により、全体として蔵書冊数を増やしており、児童生徒が本を手にとりやすい環境を整えることができました。 ・ 図書館司書の配置により、啓発活動や本の借り方指導等を実施することができ、児童生徒が図書館利用、読書しやすい環境を整えることができました。 ・ ふるさと納税による英語の絵本の購入等により蔵書内容を充実させることができました。			
	課題等	・ ふるさと納税目標額の達成、児童生徒が読書する機会の充実等が課題です。					

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当
	対応策等 ・引き続き、「学校図書館図書標準」を目標とし、蔵書の整備を行います。 ・学校図書館司書を配置し、図書館環境の整備、啓発活動等を行います。 ・ふるさと納税により、蔵書を充実させます。

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	外国語活動推進事業	会計	款	項	目	13,883,730	学校教育課
		一般	10	1	2		
	事業の概要						
英語教育の充実のため、小学校においては外国語活動指導員(日本人)による授業回数を拡充し、外国語活動の充実をさらに進めます。また、中学校においては、英語指導助手(AET)をアーリントンから招き、ネイティブの英語に触れ、異文化や異なる生活習慣を学ぶ機会を設けることで、グローバルな人材の育成をさらに進めます。							

平成28年度の実績						
D (取組)	指標	京都府学力診断テスト質問紙調査における、「外国語活動の勉強は好きだった」の回答率				単位
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31
	70.0(平成26年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	76.3			
	・2名のAETを中学校に配置し、英語のコミュニケーション能力の向上に努めました。小学校にも延べ64日訪問し、生きた英語に触れる機会を作りました。 ・小学校外国語活動指導員を各小学校へ配置し、1～4年生は年間8～12時間、5・6年生は35時間の外国語活動を行いました。また、指導員のミーティングを年間13回実施し、小学校における外国語活動の指導内容の交流を行い、工夫や改善を行いました。					

施策の「5年後の目標」に対する評価						
平成28年度の達成状況						
C（評価）	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド		対応真
		—		—		—
	達成度合	達成状況	・ 小学校での児童の外国語活動に対する学習意欲は高く、積極的に授業を受けています。特に高学年では、パフォーマンス活動に意欲的です。 ・ 小学校6年間の学習で、リスニング力がつき、中学校入門期での言語活動や表現活動に対する意欲、関心の高まりにつながっています。 ・ 中学校では、リスニング、インタビュー、表現活動、パフォーマンス活動など、積極的にAETを活用しています。また、授業中、授業外でAETとコミュニケーションを取ろうとする生徒が増えています。			
	課題等	・ 中学校での英語授業における4技能（読み、書き、聞く、話す）の充実を図り、コミュニケーション能力や豊かな自己表現力の育成を図る必要があります。				

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1:計画通りに進めることが適当
	対応策等 ・小学校での外国語活動と、中学校での英語の授業との接続と連携をさらに図ります。 ・中学校では、コミュニケーション能力や豊かな自己表現力の育成をめざして、英語の授業において4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)の充実を図ります。

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	中学校米国短期交換留学事業		会計	款	項	目	1,566,157	学校教育課
			一般	10	1	2		
	事業の概要							
	米国アーリントンへの短期留学によって、異文化を知り、自己を相対化する視点をもつことで、グローバルな舞台でも積極的に挑戦し活躍できる人材となれる機会を提供します。							

平成28年度の取組						
D (取組)	指標	訪米生徒の市民対象報告会の参加人数				単位 人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31
	149(平成27年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	151			
		・本市から4月23日～5月4日の日程で中学生16名と引率3名がアーリントンを訪問しました。訪問中は、ピアーズ小学校・オトソ中学校・アーリントン高校で生徒間交流や施設見学をするとともに、アーリントン・ポスト市内及びハーバード大学を見学しました。さらに、ホストファミリーとともに過ごすことで、アメリカ文化の一端に触れることができました。 ・また、7月7日～7月17日の日程でアーリントンの小・中・高生が長岡京市を訪問し、児童生徒やホームステイ先家族と交流を持ちました。 ・帰国後、現地での活動内容や学んだこと、訪米期間中に感じたことを生徒達が映像を交えて市民対象に報告会を開催し、多くの市民に世界にチャレンジし異文化を体験する魅力の発信をしました。報告会に向けて、生徒及び保護者全員に開催チラシの配布を行うと共に広報紙やホームページにも掲載し多くの市民に参加してもらうように努めました。				



施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成28年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド
		—		—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・中学生への事前説明会や広報紙などを通してPR活動を行い、75名の応募者から厳正なる審査の結果、意欲的な16名の生徒を選出しました。その後、訪問団員は約6カ月の英語学習により、英語運用能力を向上させた上で姉妹都市を訪問しました。その結果、訪問後の生徒の作文などから、英語でコミュニケーションを取る喜びを感じたこと、貴重な体験への感謝や英語に対する学習意欲の向上が見られたことなど、訪問団員である生徒に良い効果をもたらしました。
	課題等	・訪米及び訪日の受け入れを継続的に行っていますが、訪米できる人数が限られている為、市の中学生全体が国際理解を深める方策が課題です。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当 対応策等 ・訪米団員による活動内容を他の生徒や市民に報告することで、国際理解をさらに深め、国際人として世界にはばたくきっかけづくりを進めます。

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	中学校給食の導入と小学校給食施設の改善	会計	款	項	目	175,999,173	学校教育課
		一般	10	1	2		
	事業の概要						
	子どもの育ちを支える観点などから中学校給食導入に向け、実施方式、提供方法等の整備を進めるとともに、老朽化している小学校給食施設の改善に努めます。学校給食において地産地消の推進と食育に関する指導の充実に努めます。						

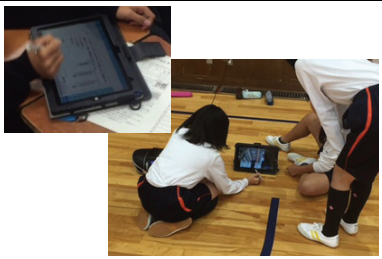
平成28年度の実施計画						
D (取組)	指標	小・中学校給食施設改修・設置計画の策定				単位
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31
	平成28年度新規事業	目標	小・中学校給食施設の改修・設置計画の策定	※平成28年度策定の小・中学校給食施設の改修・設置計画に基づく指標設定	—	—
		実績	中学校給食施設の建設及び小学校施設改修計画の策定			
	・中学校給食開始に向けて、長六小、長八小、長十小、長四中に給食室を新たに整備します。平成28年度は基本設計及び実施設計を行いました。 ・子校となる長中、長二中、長三中には、配膳室を整備します。平成28年度は配膳室の場所の検討と長二中の設計を行いました。 ・給食室の整備に合わせてエレベーターの設置を行うため、設計を行いました。 ・中学校給食の開始に当たっては、質を落とすことなく、小学校と同じ給食提供を目指します。					

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成28年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド
		—		—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・給食室の設計がほぼ決定し、建築審査を受ける準備が整いました。
	課題等	・埋文調査やプール、技術室等の解体、倉庫の新設等付随した工事の調整を図る必要があります。 ・開始に向けては4中学校が足並みをそろえた給食指導ができるように取り組む必要があります。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当 対応策等 ・建設においては、平成30年度からの順次中学校給食実施に向けて、関係機関、地域や保護者とも連携を取りながら計画的に進めます。 ・給食指導面では4中学校が足並みをそろえて給食指導できるように、手引きの作成を検討しています。 ・中学校給食にも地元産農産物を提供できるような体制づくりの検討を行います。

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	学びをはぐくむ土台づくり支援事業		会計	款	項	目	10,911,904	学校教育課
			一般	10	1	2		
	事業の概要							
	各学校の課題に応じ、大学教員等を講師とした研修による教師力の向上と学力低位層児童生徒の支援(学力向上サポーター配置)を行い、児童生徒の学力向上を目指します。 また、小中学校では、次期学習指導要領からアクティブラーニング(主体的・協働的な学習)がキーワードとなることから、デジタル教科書やタブレット端末等のICT活用を図ります。							

平成28年度の実績						
D (取組)	指標	京都府学力診断テストで正答率が50%未満の割合				単位
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31
	目標 小学4年生 国語 17.58 算数20.75 中学1年生 国語 13.01 数学34.85 中学2年生 国語 15.01 数学21.79 (平成26年度)	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績	小学4年生 国語 16.13 算数11.29 中学1年生 国語 13.72 数学16.37 中学2年生 国語 10.91 数学20.21			
		- 各学校において教職員対象の研修を実施しました。 - 中学校では学力向上サポーターの配置を行い、学習の補助を行いました。 - 長岡第五小学校と長岡中学校にタブレット型のパソコンを配備し、授業の中で能動的活動につながる仕組みづくりを研究しています。				

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成28年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
		—	—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	- 各学校の校内研修会で、学校の抱える課題に応じた講師による教職員の研修により、授業や取組に直ぐに活用できるヒントや視点を示していただき、講師の指導助言を得ることで、教職員の意識の変容が見られ授業改善が進みました。 - 配備したタブレット型パソコンを使用した公開授業では、率先して回答に取り組む児童生徒の姿を見ることができました。	
	課題等	講師を招いた研修で学んだことの実践と、その検証を行う十分な時間を確保することが課題です。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当 対応策等 - 引き続き、大学教授等の専門的、分析的な視点から指導・助言を得ることでさらに授業力の向上を図り授業改善を進めます。 - 各学校において教職員対象の研修を実施し、教師力の向上を図ります。 - 中学校では学力向上サポーターの配置を行い、継続して学習の補助を行います。 - 長岡第五小学校と長岡中学校に配備したタブレット型のパソコンの授業の中で、活用について検証を行い、今後全校に配備可否かの検討を行います。

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	「育ち」と「学び」の支援体制整備		会計	款	項	目	114,378 2,393,903	教育支援センター
			一般	10	1	6		
	事業の概要							
	教育支援センターにおいて、不登校やいじめ、心身の発達、学習や学校生活などの教育や子育てに関する課題や相談に専門の相談員等が安心と信頼を醸成しながら丁寧に対応できる体制を充実します。							

平成28年度の実績						
D (取組)	指標	全国学力・学習状況調査の質問「学校に行くのは楽しいと思う」に対する「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答率(小学校)				単位 %
	現 状(計画策定時)	年度	28	29	30	31 32
	90.1(平成26年度)	目標	91.0	92.0	93.0	94.0 95.0
		実績	86.4(小学6年生)			
	指標	全国学力・学習状況調査の質問「学校に行くのは楽しいと思う」に対する「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答率(中学校)				単位 %
	現 状(計画策定時)	年度	28	29	30	31 32
	85.0(平成26年度)	目標	86.0	87.0	88.0	89.0 90.0
		実績	86.1(中学3年生)			
	・「育ち」と「学び」の具体的支援として、教育最前線を担う教員の指導力向上のための教職研修事業、児童生徒の学習意欲を喚起する学習発表会事業、子育てや学校生活における安心と信頼に対応する教育相談事業と適応指導教室事業を実施しています。 ・適応指導教室(アゼリアひろば)では、不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等の相談と指導を行っています。 ・教育相談事業では専門相談員(カウンセラー)による面談及び電話による相談、児童精神科医師による相談やプレイセラピーも実施しています。特に28年度は文部科学省の不登校児童生徒への支援モデル事業の委託を受け、教育相談員・教育支援員を市内小学校に派遣する取組を行いました。					
						

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成28年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド 対応員
		—		—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・児童生徒が、学びの場である学校が楽しい所であると認識できることは、学校教育が総合的に良好に機能している事と言えます。小学校で目標より低くなっていますが、同時期実施の京都府学力テストでは小学4年生の89.3%、中学1年生の93.8%が楽しいと答えています。各学校の特色ある教育活動の成果と考えます。センターとしては、対処療法的な取組以上に、教職員研修や発表会事業等の児童生徒の成長と発達への積極的な取組が市内各校の教育活動に反映しているものと考えます。また、保護者や教職員の子育てや教育に関する悩み等に対応した教育相談や学校現場での直接的な心理的支援の機会が充実したことによる教育への期待感や、安心感も作用していると考えます。
	課題等	・社会の変化と学校現場の状況を踏まえた教育ニーズに迅速に対応できる教育支援センターの役割と機能を常に見直すとともに、その体制を充実していきます。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 対応策等
1: 計画通りに進めることが適当	・大学や京都府総合教育センター等の専門家及び、市内各校の管理職等で構成する教育支援センター推進協議会において、社会の変化と学校現場の状況を踏まえた教育ニーズに迅速に対応できる教育支援センターの役割と機能を常に検討します。

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	いじめの問題等への対策	会計	款	項	目	977,299	学校教育課
		一般	10	1	2		
	事業の概要						
	いじめ等対策指導員を配置し、いじめ等の実態把握を行うなど、各学校への巡回指導を実施します。各学校では、学期ごとにいじめアンケートを児童生徒に行い、いじめの早期発見・早期対応に努めます。						

平成28年度の実績						
D (取組)	指標	重大事案発生数				単位 件
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31
	0(平成26年度)	目標	0	0	0	0
		実績	0			
	・毎学期にいじめアンケートを行い、児童生徒の日々の活動にきめ細かく目を配っています。					

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成28年度の実績状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	・いじめ等対策指導員が学校を巡回し、児童生徒の生活環境から教職員との情報共有を行い、いじめにつながる芽の早期発見に努めました。	
	課題等	・今後も、日々のきめ細かな児童生徒の観察を行い、いじめの早期発見・早期対応を行います。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当
	対応策等 ・引き続き、いじめ等対策指導員が学校を巡回し、児童生徒の生活環境から教職員との情報共有を行い、また、学校生活での観察を行います。

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目				決算額(円)	担当課
	学校での部活動支援		会計	款	項	目	569,780	学校教育課
			一般	10	3	1		
	事業の概要							
	部活動の充実を支援するとともに、競技力の向上を図るため、遠征費等の充実に努めます。							

平成28年度の実績						
D (取組)	指標	長岡京市スポーツ賞のわかたけ賞受賞者数				単位
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31
	20人 9団体 (平成26年度)	目標	—	—	—	—
		実績	23人 7団体			
	・平成28年度は府大会50%、近畿大会70%。全国大会100%の補助率で大会出場に係る交通費等の補助を行いました。 <実績> 長岡中学校：277,970円 長岡第二中学校：50,790円 長岡第三中学校：190,330円 長岡第四中学校：50,690円					

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成28年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	・平成28年は、合計569,780円の補助を行い、保護者の経済的負担の軽減を行いました。 全国大会は、開催場所によっては、相当な保護者負担となる為、各種選手派遣補助金制度は保護者の負担軽減の一助となっています。 ・近畿大会へ24名、全国大会へ3名が出場し、生徒全体の競技力の向上が見られました。	
	課題等	・保護者の経済的負担の軽減を継続していく為に制度を継続します。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当 対応策等 ・今後も、部活動への側面的支援の方法として、遠征費(交通費等)の補助を行います。